授業科目名	教育社会学	科目コード	K1103L15
英文名	Educational Sociology		

科目区分	子ども育成の理論
------	----------

職名	非常勤講師	担当教員名	濱 貴子
学部	子ども育成学部	学科	子ども育成学科
曜日	水曜日	時限	3限目
開講時期	3年後期	授業の方法	講義
必修・選択	選択	単位数	2単位

授業の概要	<p>本授業では、これまで家庭や学校、習い事、塾などの場で当たり前のこととして経験してきた教育を、社会学のメガネをかけて（社会的視点から）見直してみる。そうすることで、教育という営みは社会現象としてどのような特徴をもつのか、他の社会現象とどのような関係にあるのかということについて理解を深めていく。 受講生のみなさんには、少し距離をとって「教育」についていろいろな角度からながめたいうえで、「教育」とかかわっていく態度を養っていただきたい。</p>
-------	--

キーワード	教育	家族	学校	社会	教育問題
-------	----	----	----	----	------

到達目標	教育と社会の関係に対する理解を深めることができる。
	教育現象を社会的視点から複眼的・批判的に考察できるようになる。
	教育とかかわっていく態度を養うことができる。

卒業要件・資格関連等

卒業要件	幼稚園教諭	保育士	小学校教諭	社会福祉士	スクール ソーシャルワーカー
------	-------	-----	-------	-------	-------------------

ディプロマポリシー	1.「人」としての能力（人間性の向上）	4.社会人としての能力（社会性の向上）
カリキュラムポリシー	現代社会に必要な基礎知識の向上	専門分野に共通する基礎知識の向上

キー・コンピテンシー（重視する能力）

コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力
------------	-----	-------	-------	-------

教授方法（授業方法）

知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動
-------	-------	----------	--------	------------	--------------

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	<p>イントロダクション 教育社会学とはどのような学問かということとを近接他領域との問いの立て方の違いから整理するとともに、教育は現代の日本社会と切っても切れない関係にあるということ、教育社会学を学ぶことの意義を解説する。</p>	
	<p>【予習】教育社会学という学問分野について調べておく。</p>	
	<p>【復習】教育社会学と近接他領域の問いの立て方の違いをまとめる。</p>	
第2回	<p>社会化とアイデンティティ 人間は社会のなかで形成されていくという「社会化」の考え方を紹介し、社会化に対する二つの考え方を整理する。そのうえで、社会化を支える基盤が弱まりつつある現代社会における個人としてのアイデンティティ形成の重要度の高まりとその背景について解説する。</p>	
	<p>【予習】事前に配布する「社会化とアイデンティティ」のプリントを精読しておく。</p>	
	<p>【復習】社会化とアイデンティティについて今日的な重要性をまとめる。</p>	
第3回	<p>家族と教育 「大人」と「子ども」の関係の歴史と現在 「子ども」は「大人」との関係でどのような存在としてとらえられてきたのかということに関する歴史を振り返るとともに、現代社会において変容しつつある「大人」と「子ども」の関係について考える。</p>	
	<p>【予習】事前に配布する「家族と教育 「大人」と「子ども」の関係の歴史と現在」のプリントを精読しておく。</p>	
	<p>【復習】「子ども」と「大人」の関係の変化についてまとめる。</p>	
第4回	<p>家族と教育 「教育する家族」の誕生と変容 子どもを特別な配慮の下で育てようとする「教育する家族」の誕生と変容をたどり、現代の家庭と教育をめぐる諸問題について、育児不安、ペアレントクラシー、父親の育児参加という点を中心に考える。</p>	
	<p>【予習】事前に配布する「家族と教育 「教育する家族」の誕生と変容」のプリントを精読しておく。</p>	
	<p>【復習】現代の家庭と教育をめぐる諸問題についてまとめる。</p>	
第5回	<p>学校・教室という空間 文化装置としての学校 見慣れた学校という空間がどのように構成され機能してきたのかということとを振り返ることによって文化装置としての学校の性質について考える。</p>	
	<p>【予習】事前に配布する「学校・教室という空間 文化装置としての学校」のプリントを精読しておく。</p>	
	<p>【復習】文化装置としての学校の性質についてまとめる。</p>	
第6回	<p>学校・教室という空間 感情共同体としての学校 学校への愛着や帰属意識といった感情共同体としての学校という側面について考える。</p>	
	<p>【予習】事前に配布する「学校・教室という空間 感情共同体としての学校」のプリントを精読しておく。</p>	
	<p>【復習】感情共同体としての学校についてまとめる。</p>	
第7回	<p>学校・教室という空間 学校における安全・安心 近年顕在化してきた学校空間において児童・生徒の安全・安心を脅かす「教育」について考える。</p>	
	<p>【予習】事前に配布する「学校・教室という空間 学校における安全・安心」のプリントを精読しておく。</p>	
	<p>【復習】児童・生徒の安全・安心を脅かす「教育」についてまとめる。</p>	
第8回	<p>「教育困難」と教師の実践 連携と働き方の模索 学校空間の変容によって現代の学校においては「教育困難」の感覚が広がっている。そのなかで求められている教師役割について再考するとともに、近年進行している働き方改革のなかでの教師の実践について主に「チーム学校」としての連携や地域との連携を中心に概観する。</p>	
	<p>【予習】事前に配布する「「教育困難」と教師の実践 連携と働き方の模索」のプリントを精読しておく。</p>	
	<p>【復習】学校における働き方改革についてまとめる。</p>	

第9回	ジェンダーと教育 学校において 男らしさ 女らしさ が制度的・文化的にどのように形成されていったのかということと現代においても持続している教育における男女差について、学力、進路等に関する統計データをみることによって考える。	
	【予習】事前に配布する「ジェンダーと教育」のプリントを精読しておく。	
	【復習】現代社会の教育における男女差についてまとめる。	
第10回	教育問題 不登校・いじめ 不登校・いじめについてそれらの構造を整理するとともに語られ方の変化を概観し、近年の状況や対応策について解説する。	
	【予習】事前に配布する「教育問題 不登校・いじめ」のプリントを精読しておく。	
	【復習】不登校・いじめ問題の近年の状況や対応策についてまとめる。	
第11回	教育問題 逸脱・少年非行 逸脱・少年非行についてそれらの問題のとらえ方の特徴や変化を概観するとともに、近年の状況や対応策について解説する。	
	【予習】事前に配布する「教育問題 逸脱・少年非行」のプリントを精読しておく。	
	【復習】逸脱・少年非行問題の近年の状況や対応策についてまとめる。	
第12回	社会階層と教育 学歴社会の実態と費用負担 学校卒業後の職業や所得のばらつき（社会階層の差異）はなぜ生じるのかということをおもに学歴社会という側面から考えるとともに、現代日本における学歴社会の実態を各種統計データから把握する。また、教育費の負担主体の国際比較から日本における教育による階層格差は正の状況についても考える。	
	【予習】事前に配布する「社会階層と教育 学歴社会の実態と費用負担」のプリントを精読しておく。	
	【復習】近年の日本における教育による階層格差は正の状況についてまとめる。	
第13回	変貌する高等教育 日本における高等教育の歴史をたどるとともに、高等教育機会の大衆化によって変貌している高等教育機関の現在について考える。	
	【予習】事前に配布する「変貌する高等教育」のプリントを精読しておく。	
	【復習】日本の高等教育機関の現在についてまとめる。	
第14回	大学と学生文化 大学の大学が大衆化が進むなかで学生文化はどのように変容してきたのかということをおもに読書と教養主義を中心に振り返り、現代日本の大学と学生文化について考える。	
	【予習】事前に配布する「大学と学生文化」のプリントを精読しておく。	
	【復習】現代日本の学生文化についてまとめる。	
第15回	学校から職業へ 就職 学校と職業をつなぐ「就職」という現象について、日本の就職システムの特徴と変容・ゆらぎを概観し、これからの就職について考える。	
	【予習】事前に配布する「学校から職業へ 就職」のプリントを精読しておく。	
	【復習】日本の就職システムの変容についてまとめる。	
第16回	期末筆記テスト	
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	毎回提出するミニレポート（40％）、期末筆記テスト（60％）。		
使用資料 <テキスト>	テキストは指定しない。授業時に必要な資料を配付する。	使用資料 <参考図書>	稲垣恭子、2017、『教育文化の社会学』放送大学教育振興会。
授業外学修等	必要に応じて事後学習を指示する。そこで指定された文献・資料を熟読すること。		
授業外質問方法	hama@pu-toyama.ac.jpにて受け付ける。		
オフィス・アワー	授業終了後に設定。		